

工藤 智哉

【はじめに】

1949 年「明るい豊かな社会」の実現を理想とし、責任感と情熱を兼ね備えた青年有志により、日本の青年会議所運動は始まりました。互いに切磋琢磨し、社会に貢献しようという理念のもと、日本各地に青年会議所が誕生し、当会は 254 番目の組織として誕生しました。認承から数えて 62 年、我々は今、先輩諸氏が活動し築いてこられた輝かしい歴史と伝統の上に立っています。

今日、全国的な人口減少や少子高齢化が進む中、地域コミュニティの衰退や地域経済の縮小など、地域の未来に暗い影を落とす課題が山積しています。今こそ我々、地域を牽引する青年経済人が、先輩諸氏から受け継いだまちへの思いを胸に、英知と勇気と情熱をもって率先して行動するべきです。仲間と共に知恵を出し合い、手を取り合いながら、地域の未来を見据えた運動を展開してまいります。

困難な課題があるからこそ私たちの出番があると信じ、仲間と共に未来を思い描き、「明るい豊かな社会」の実現に向けて本年も邁進してまいります。

【会員拡大と会員交流による持続的発展】

昨年度は数多くの仲間を迎え入れる事ができ、会員一人ひとりが地域への思いを共有し、情熱を持ち拡大運動を行ってまいりました。しかし、在籍年数の低下や会員の減少は組織の弱体化につながり、青年会議所運動を地域に広げ、その理念を次代へとつないでいく為には、会員拡大の継続こそが必要不可欠です。

会員獲得に向けた情報共有を積極的に行うとともに会全体で一丸となり、会員増強に取り組んでまいります。また、会員相互の交流を深め、組織としての協調性を高めることによって、大きなシナジーを生み出すことができます。会員が増えることでそのエネルギーは拡大交流運動そのものを加速させ、入会候補者に対してアプローチからクロージングまでを迅速かつ丁寧に行い、拡大と交流の輪をさらに広げてまいります。

この持続的な拡大交流運動こそが、地域を牽引する青年会議所としての存在意義をより確固たるものにする確信しております。

【組織運営の円滑な実施】

当会は、先輩諸氏が長きに渡り築き上げてこられた伝統と信頼の上に存在します。認承より62年の歩みを重ねた今、我々はその歴史を誇りとし、次代へと確かな形で引き継いでいく責任を担っています。地域に根ざし、信頼される団体としてあり続けるためには、規律正しく、品格ある組織運営が求められます。

組織の根幹を担う総会の厳正な運営、役員選考委員会の設置・管理など、あらゆる場面で支えてまいります。円滑な運営は、会員一人ひとりの安心と信頼を生み出し、その誠実な姿勢が地域からの信頼へとつながります。この内外の信頼こそが、当会の活動を力強く推し進める原動力となるのです。迅速な情報共有を徹底することで、会全体の規律を高めてまいります。

当会の基盤を守る縁の下の力持ちとして、確固たる使命感を胸に、秩序と信頼に満ちた組織運営を推し進めていくことと確信しております。

【未来へつながるまちづくり】

生活様式や価値観の多様化により対面でのつながりが薄れつつある今こそ、人と人との集い、学び、支え合う機会を創り出すことが求められています。誰もが安心して暮らせるまちを実現するためには、全ての人々が未来を創り上げる当事者意識をもち、未来へつながるまちづくり意識を広げていくことが大切です。

その為に、地域に住み暮らす人々がつながりを大事にし、助け合えるきっかけとなる事業を展開してまいります。楽しみながら学べる体験の場や、世代を超えた交流の機会を創出し、全ての人々が地域への関心と誇りを持てるような環境づくりを目指します。地域の明るい未来を見据え、確かな成果を積み重ねることで、地域に希望と活力をもたらすまちづくりを実現してまいります。

地域に住み暮らす人々がつながりを大事にし、安心して笑顔で暮らせる持続的なまちづくりになることと確信しております。

【率先して地域を楽しむ青少年育成事業】

現代の子どもたちは、便利さと情報にあふれた社会の中で、情報は瞬時に届きあらゆることが容易に手に入る環境に育っております。一方で、子供たちが直接向き合い、心を通わせる機会が減少しています。言葉を交わし、感情を共有する中で培われてきた人としての温かさや思いやる心が希薄になりつつある今こそ、地域の中で心を育む教育の重要性を見つめ直す必要があります。

当会は、地域社会との関わりを通じて、子どもたちが人とふれあい、感謝や思いやりの心を学び合う体験型の事業を展開してまいります。子どもたちが地域の温かさを感じ、自ら考え、自信をもち行動できる力を養うことで、未来の地域を担う人財へと成長していくことを目指します。

そうして成長した子どもたちが、これからの地域に必要とされ、地域を支える人財になると確信しております。

【地域と共に「第54回 奥津軽虫と火まつり」の開催】

「天下泰平」「国家安泰」「五穀豊穰」「悪疫退散」の祈りを込め、地域の安寧と繁栄を願い毎年開催されている伝統行事「奥津軽虫と火まつり」。このまつりは第54回を迎えます。これまでの長きにわたり、関係団体や先輩諸氏、地域の皆さまのご支援とご協力のもとこのまつりは継承されてきました。一方で、物価高騰、伝統芸能の担い手不足、運行団体の減少など、まつりを取り巻く環境は年々厳しさを増しており、まつり開催の意義や形が問われる時代となっております。

そのために、持続可能な運営体制の構築を見据え、まつりの在り方を再考し、新たなまつりを模索しながら、時代に即した形で進化させます。まつりのすそ野を広げるために本年も「親善大使事業」を行います。そして地域に愛される「第54回 奥津軽虫と火まつり」を開催いたします。

まつりを通じて地域の交流を促進し、郷土愛の醸成と継承を目指し、地域の誇りを次代へとつなぐために、運動を展開してまいります。

【自己成長の機会を】

青年会議所は毎年組織や事業内容が変わり、常に新しい役割や環境に挑戦する機会に恵まれ、柔軟性・適応力・リーダーシップが育まれる団体です。地域を牽引する人財となるためには、一人ひとりの資質向上と青年会議所運動への理念を理解する場が必要不可欠です。

すべての会員が JAYCEE として平等に学び、資質向上を図るための研修機会を設け、経験や立場に関係なく、組織運営に必要な知識・姿勢・行動力を学ぶ機会を創出し、次代を担う中核人財の育成に努めます。

個の成長が組織の成長へ、真に地域を牽引できる人財を育ててまいります。そして、その成長が地域の発展へとつながることと確信しております。

【結びに】

私は 2015 年度に入会して以来、青年会議所活動を通じて多くの先輩諸氏から数え切れないほどの学びと気づきをいただきました。入会当初は事業内容も理解できぬまま、ただ先輩方の背中を追いかけ、共に笑いながら活動を楽しんでおりました。やがて役職や立場が変化し、責任の重さに戸惑い、活動の意義に迷い悩む時期もありました。そんな時、ある先輩が掛けてくださった「楽しいの中にこそ学びはある」という言葉が、私の心を支え続けてくれました。その言葉を胸に、失敗を恐れず一步を踏み出し続けることができたのです。

もし私が、青年会議所という組織に出会っていなければ今の自分は存在していなかったと心から感じております。青年会議所の魅力は一言では語り尽くせません。活動を通じて得た数多くの経験、心を通わせた仲間たち、そして常に前を向かせてくれた先輩の姿勢。どれも私の人生を豊かにし、今日の私を形づくってくれました。支えてくれた家族、共に歩んできた仲間、導いてくださった先輩方に、改めて深く感謝申し上げます。

我々が働き、住み暮らすこの地域を次代へつないでいくためには、私たち一人ひとりが自らを磨き、成長し続けることが必要です。家族を笑顔にすること、地域を笑顔にすること、その積み重ねこそが「明るい豊かな社会」の実現につながるものと確信しております。これまでの学びと感謝を胸に、先輩諸氏が築いてこられた歴史と伝統を受け継ぎ次代へとつなぐ使命を果たすべく、英知と勇気と情熱をもって邁進してまいります。

基本計画

【基本理念】

先んじて行動

その姿勢が未来を切り開く

【基本方針】

1. 会員相互の発展を目指す交流の実施と会員拡大
2. 規律ある組織運営と迅速な情報共有の実施
3. 地域の明るい未来を見据えたまちづくり
4. 心を育む青少年育成事業
5. 更なる郷土愛へ「第54回 奥津軽虫と火まつり」の開催
6. JAYCEE としての意識向上、成長の機会の提供

【LOMスローガン】

先手必笑

～行動の先に笑顔を～

公益社団法人 五所川原青年会議所 2026年度 組織図

